

III 養殖水産動物保健対策推進事業*

小川 健・服部 未夏

目的

養殖水産動物保健対策推進事業実施要領（1994年6月，水産庁）による。

事業の内容と結果

1. 魚類防疫対策

1) 魚類防疫対策

(1) 魚類防疫対策

ア 魚類防疫会議

1996年度の実施状況を表1に示した。

イ 防疫対策定期パトロール

北部（戸津井・神谷），中部（田辺・白浜），南部（串本・大島）および東部（浦神・勝浦）の各養殖地域を月1~2回パトロールし，ブリおよびマダ

イの健康診断および魚病の予防治療についての指導ならびに防疫監視を行い，魚病発生の未然防止に努めた。

ウ 保菌種苗搬入防止対策

養殖用の種苗の移出入に伴う魚病伝播を防止するため，マダイの滑走細菌感染症・ビブリオ病，ブリのビブリオ病・腹水症およびヒラメの滑走細菌感染症の検査を行った。

この結果マダイでは5検体中1検体にビブリオ病・滑走細菌感染症の合併症がみられ，ブリでは3検体のうち1検体がビブリオ病・連鎖球菌症の合併症，1検体がビブリオ病であった。またヒラメでは5検体中3検体にビブリオ病・滑走細菌感染症の合併症，1検体に滑走細菌感染症がみられた。

エ 魚病情報ネットワーク化

(ア) 魚病関連情報の台帳化

表1 魚類防疫会議実施状況

年月日	会議名	場所	備考（議題等）
'96.10.16	第24回全国魚類防疫推進会議	東京都	1996年度魚病・養殖関係予算 クルマエビPAVの防疫体制について 魚類防疫制度について 輸入種苗の隔離飼育事例
'97.3.14	第25回	東京都	1997年度魚病・養殖関係予算の概要 ヘテロボツリウム駆除薬剤の開発について 水産用ワクチンの取扱いについて
'96.4.24 ~25	南西海ブロック魚類研究会	広島市	1995年度各県の魚病発生状況と問題点 放流種苗の疾病対策 外来種苗導入の現状と問題点 魚類防疫制度の創設について
'96.11.27 ~28	水産養殖研究推進全国会議	伊勢市	ワクチン研究会，イリドウィルス研究会およびPAV研究会の活動報告 種苗生産・放流と防疫問題 輸入種苗の防疫制度について
'96.4.23	県内防疫会議	串本町	1995年度県内魚病発生状況 バイオディフェンス機能活用健康魚づくり技術開発事業について
'96.4.22	地域防疫検討会	湯浅町	〃 ヒラメの病気について
'97.1.21	〃	串本町	〃

*養殖水産動物保健安全対策事業費による。

県下の海面養殖業者を対象に、養殖実態、魚病発生・被害情報、漁場環境等の台帳化に努めた。

(イ) 漁場観測

毎月1～2回、各地域の養殖漁場1～2ヵ所で水温、DO、海水比重および透明度を測定した。

(2) 水産用医薬品対策

ア 医薬品適正指導対策

指導状況は表2に示すとおりであった。

イ 医薬品残留総合点検

公安法による検査結果を表3に示した。

関連性について重要と考えられる事項

いずれの検体も投薬後60日以上経過しており残留は認められなかった。

ウ 水産用医薬品再評価調査

(社)日本水産資源保護協会から委託を受け、飼育水温23～25℃の範囲で、マダイ成魚(出荷サイズのもの)にチアンフェニコールを5日間投与し、休業期間終了日前後の薬剤残留を調べた。

(3) 新型伝染性疾病対策事業

ア 関係地域対策合同検討会

マダイのイリドウィルス感染症を対象として、表4に示す全国イリドウィルス関係地域対策合同検討会に参加した。

イ 病原体侵入防止対策

(ア) 県内対策会議

1996年6月19日、串本町において海面養殖業者、県事務所水産業改良普及員および関係漁協職員による県内対策会議を開催し、'96年度第1回全国関係

表2 医薬品適正使用指導状況

年月日	場所	内容	備	考
'97.2.18	串本町	説明会	海産魚のワクチンと生体防御機能について 医薬品の適正使用について 出席者32名	
'96.4.9 から '97.3.31	県下各 養殖地域	巡回指導	戸津井、由良、田辺、白浜、串本、大島、浦神、勝浦で 医薬品の適正使用を指導	

表3 公定法による医薬品残留検査結果(財団法人日本冷凍食品検査協会神戸事業所に委託)

魚種	検体採取		検査対象医薬品	検体数	結果
	年月日	場所			
ブリ	'97.1.13	中部	エリスロマイシン	5	残留なし
	1.9	東部	〃	〃	〃
マダイ	'97.1.13	中部	塩酸オキシテトラサイクリン	5	〃
	1.9	東部	〃	〃	〃

表4 全国イリドウィルス関係地域対策合同検討会開催状況

年月日	開催場所	主催県	構成員	主な議題
'96.4.25	広島市	愛媛県 長崎県	静岡県, 三重県, 和歌山県 香川県, 徳島県, 高知県 大分県, 熊本県, 宮崎県 鹿児島県	1995年度全国発生状況 〃 各県関連研究結果 1996年度各県研究計画 診断用モノクロー抗体配布体制
'96.11.28	伊勢市	同上	同上	1996年度全国発生状況 PCR法による診断 現場レベルでのワクチンの有効性について

地域対策合同検討会における討議事項と'95年度の全国のイリドウィルス感染症の発生状況を説明した。

(イ) 県内病原体侵入状況調査

県内における本症の動向を的確に把握するため種苗等の脾臓スタンプ標本について、ギムザ染色法およびモノクローナル抗体を用いた蛍光抗体法による検査を行い、イリドウィルス侵入状況を調査した。その結果、養殖マダイでは有田郡広川町湯浅湾、田

辺市下芳養湾および田辺湾（白浜町地先）の0年魚と、田辺湾（白浜町地先）の1年魚に発生がみられた。

また、マダイ以外の魚種では、シマアジで湯浅湾の0～3年魚、および田辺湾と串本町須江の1年魚に、またブリ・カンパチ・イシガキダイでは、田辺湾の0年魚に発生が確認され、昨年に比較して発生魚種および地域の拡大傾向がみられた。